

麻 酔 科

【一般目標】（全員必須）

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、周術期を担当する医師の責任感、職業的な技能、思考法、態度を学ぶ。
- 2) 周術期の全身管理と麻酔科関連領域の診療の実際に触れることで周術期医療の実際を学ぶ。
- 3) 常に患者の安全と質の高い医療を行うために、医師として努力し続けることを学ぶ。
- 4) 医学生として必要な麻酔管理の知識と技術を習得する。

【到達目標】

○ 麻酔実習（全員必須）

- 1) 手術患者の全身状態の評価方法を知る。
 - (1) 術前検査値の評価ができるようになる。
 - (2) 合併基礎疾患の周術期コントロールの意義が説明できるようになる。
- 2) 症例に応じた適切な麻酔法を説明できる。
- 3) 麻酔方法と麻酔管理上必須のモニター、検査、対処法が説明できる。
- 4) 症例の概要を適切な説明で提示できる。
- 5) 気道確保と人工呼吸が実際に行える。
- 6) 血液ガス分析、電解質、凝固検査などの検査を行い、その結果を解釈できる。

○ 疼痛治療実習（全員必須）

- 1) 術後疼痛管理の実際に触れ、その意義が説明できる。
- 2) 神経ブロック等のペインクリニック治療について説明できる。
- 3) 緩和ケアの基本について説明できる。

○ 外科系集中治療室実習（全員必須）

- 1) SICUでの周術期の全身管理について説明できる。

○ 関連病院での実習（全員必須）

- 1) 一般病院での麻酔科関連業務に触れ、その概要を説明できる。

週間スケジュール

下記の通り。なお学生数により個別スケジュールは調整する。

大学病院実習では毎朝、麻酔科カンファレンスルームに集合すること。

- | | | | |
|-----|-----|----------|--|
| 第1週 | 月～金 | 毎朝 7:30～ | 術前カンファレンス/麻酔管理/回診
なお月曜日は疼痛治療の見学実習が加わることがある。 |
| 第2週 | 月～金 | 第1週と同じ | |
| | 金 | 午後 | 個別に実習実績の報告（カンファレンス） |

※関連病院での実習は第1・2週で適宜調整する

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用し、靴を履くこと。ネームプレートは常時着用。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフとは大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。

- と。患者さんには、実習に協力して戴いていることに感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務，個人情報管理には常に留意し，患者さんのプライバシー保護には気を配ること。また，予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
 - 4) 欠席，遅刻の場合は前もって電話かメール等で届け出ること。理由が説明できない欠席があれば，卒試の受験資格を与えない。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行う。ポートフォリオには実習中に学んだこと，体験したことを毎日漏らさず記入すること。また，実習中に調べた知識や検索した文献なども，すべて綴じ込むこと。
- 2) 曜日毎に担当指導医を割り当てるので，指導医と行動を共にし，指導医の受け持つ患者と一緒に診療する。具体的にどのような診療行為を行うかは指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見，また，その後の処置や治療など，記録すべき事項は，学生自身がファイルすること。なお患者が特定できる個人情報は決して手許に残さないこと。
- 4) 指導医の指定した症例について，症例提示を行うことを要求することがあるので，その場合は既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ，事前に準備しておくこと。

【評価】

到達目標（11項目）が実習中にどの程度達成されたかを評価する。方法は，指導医による全体的な行動（パフォーマンス）の評価，症例提示の良否，ポートフォリオの内容の評価などによる総合評価である。また，知識面では，最終日の試問の際に当科領域に関する質問を行い，理解度を評価する。

評価項目	配点
大学指導医による学生の行動内容の評価	25
派遣実習先病院の指導医による学生の行動内容の評価	15
気道確保と人工呼吸が実際に行える	20
ポートフォリオが知識や技術の向上の記録となっている	20
最終日の試問	20

【参考図書，文献】

- 1) 標準麻酔科学 第6版 医学書院

担当教官

河本昌志，仁井内浩，濱田 宏，讃岐美智義，福田秀樹，佐伯 昇 ほか

担当者・連絡先： 濱田 宏 hhamada@hiroshima-u.ac.jp

なお事故等の急変時は麻酔管理室 082-257-5533に連絡のこと（082-257-5267は日中のみ）